

発行
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園
〒421-0412 静岡県牧之原市
坂部2151番地2
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp
http://www.yamabatogakuen.jp/
郵便振替 00800-6-14641
頒価年額600円(千共)1部50円(千共)
(送料・消費税込み)
寄付金の一部に購読料を含む場合があります。

いのちの重み、つながり

(一)

ある日、スタッフのAさんが、「自宅で、こんな面白い手記を見つけた」と言っ、A3用紙2頁の資料(コピー)を渡してくれました。

タイトルは、「施設訪問で得たもの」となっています。読んでみると、「やまばと成人寮」を訪ねたときの感想文のようでした。

それは、『こころ豊かに〜静岡県中学校道徳教育副読本』の中に掲載された文の一つで、いわゆる「ゆとり教育」のテキストとして使われていたことが分かりました。

ゆとり教育というのは、日本における知識偏重型の「つめこみ教育」への反省から、一九七二年、日本教職員組合が「生きる力を育む教育」や、「学校5日制」などを提起。その後、文部科学省が中心

となって「一人ひとりにあつた教育」

「自分で考える力を養う」「体験から学ぶ」といったことをキーワードにして、小学校、中学校、高等学校の学習指導要領等の改正を進め、二〇〇二年、「ゆとり教育」を開始するに至つたものです。

この時から、(子供たちに一律に課されていた) 授業内容と学習時



間は、必要最低限の範囲に絞られ、豊かな人間性を育み、個性を生かす教育に変わりました。しかしその後、「学習時間の減少で学力が低下した」との声が上がり、二〇一一年度以降は、再び「脱ゆとり」の流れになり、現在は、「ゆとりでも詰め込みでもない、生きる力を育む教育」が推進されています。

いずれにしても、「ゆとり教育」の時代に、中学生が施設を訪れ、どんなことを考えたか、ご参考までに、その手記をご紹介します(紙面の都合上、一部割愛)

(二)

「夏休みに、障碍者の施設に行つて勉強しないか。どうだ? もちろん自由参加だ。希望者はいないか? その障碍者の人たちとね、一緒に散歩をするんだ。」

担任の先生の呼びかけに、行ってみたい気持ちがわきました。施設訪問は初めてです。私が友達を誘うより先に、逆に私のほうが誘われて、八月二十八日、「やまばと学園」へ行くことになりました。

その日は、朝から三十度近い暑さでしたが、K先生に引率され、私たち十二人は、「やまばと学園」迄の十四キロの道を、サイクリン

グしている気分で行きました。最初の感想は、(まずい所へ来ちゃったなあ...) です。「学園」は、自分が抱いていたイメージとは大違い。よだれをたらし、手を口の中へ突っ込み、ウーウーとうなりながら歩く男の子がいます。

私はその男の子の手をひいて五キロの散歩へ出かけることになりました。(今日は、失敗したなあ。それに、ちよつと、気持ち悪いなあ)、ちらつと彼の顔を見ると、彼は表情をくずして私を見つめ、よだれをたらしているのです。私とつないでいる手も、よだれでべちよべちよでした。体中がぞくぞくつとしてきて、もう顔も見ずに黙つて列に従つて歩くだけでした。(早く帰りたい。気持ち悪い) そんな思いが、頭の中を駆け巡ります。

しばらくして、ふと気づくと私の前を歩いている男子が、学園の人に盛んに話しかけていました。「僕は藤枝中学校三年五組の者ですけど...、ねエ、聞いてくれますか?」ペアを組んでいるのは、女の子でした。彼女は手もつながら、男子を無視してすたすた歩いているのです。「どうしたの?」私が声をかけると、「いいなあ、あん

たら。手、つなげて：こつちゃあ、何を言っても、聞いてくれねえんだもん」。そう言つて、また熱心に彼女に話しかけていました。

(「そうだ、私は何かを見つげるために来たんだ」)、もう、手だつてよだれでぬれているから、こわいものなんかないぞ！そう聞き直つて、彼の顔をのぞきこみました。すると、笑つてくれたのです。言葉をお話せない人が、笑つてくれたのです。顔に表してくれたのです。もしかしたら、今までずっと私の顔を見て、彼は精一杯の笑顔を送つてくれたのかもしれません。ところが、私はただ気持ちが悪いとしか思えなかつたのです。

私たちの横を、同じクラスの男子が、恋人同士のようにびったりと肩を組み寄り添つて歩いていきました。「すごい」、思わず叫んでしまいました。そして、私自身をととても恥ずかしいと思ひました。自分が醜く感じました。

私もそつと肩に手を置いてみました。すると後から、「いいねえ、オレ君」という施設の先生の声。「オレ君つて、言うんですか」

「そう。この子、自分のことをオレつて言うのね」

そのときです。突然オレ君が叫びました、「オレ君」。：本当だ、私も一緒に、大声で、「オレ君」。

なぜか、とてもうれしくなつてしまいました。オレ君を気持ち悪いと思つていた自分が、いつの間にか、こうして一緒に肩を組んで歩いている。そして、そのことをとても幸せに感じ始めている。：

(三)

(後半省略)

この中学生とオレ君との出会いは、かの著名なヘンリ・ナウエンが最重度の心身障害者アダムに出会つたときのことを、私に思い出させました。H. ナウエンはカトリック司祭で、エール大学やハーバード大学で実践神学を教えた博士の人。霊性に関する著書も多く、世界的に有名でしたが、突然、アカデミックな世界を辞し、ジャン・バニエが創設したカナダのラルシユホーム(知的障害者と健常者がともに暮らす共同体)へ入ります。

到着早々、彼は、最重度の知的障害者、アダムを世話するよう頼まれました。ナウエンはうろたえ、しり込みし、拒絶しますが、関係者たちは、「大丈夫。出来ます。あなたは、きっと、アダムを好きに

なるでしょう」と言い続けます。結局、ナウエンは、最も不得手な「世話人」の役割を引き受け、何かにつけ、「助けてくれ」と大騒ぎしながら、その仕事を覚えていきます。アダムの奇妙な手の動きや、大発作はナウエンを神経過敏にしましたが、介護を習得するにつれ、アダムの生命の深さにふれ、その存在の大きさに気づき、深い絆で心が結ばれていきます。

アダムは、何もできず、ただ、神の恵みと人の助けに依存して生きていました。しかし、徹底した弱さの中で彼が発する光と平安は、不思議なことに、健常といわれる人を慰めます。特に、(もし、今の自分の名声や財産、地位が無くなつたら、自分は愛され続けるだろうか)悩んでいた、一見強い人たちの心を解放させたのでした。

ナウエンは、重い障害を負つたアダムの生の意味を次のように記しています。「アダムは、神と人に完全に依存して生きています。彼が十全に生きられるためには、彼の周囲に愛の共同体が必要だ。アダムは、『僕が生きていることが出来るのは、君たちが僕を愛で取り囲み、互いに愛し合うときだけなのだ

よ』と身をもつて伝えていた。私たちは、個人主義や、能動的な行動を重視し、そのような生き方に走り易いが、人生の真理は、実は受動なのである。考えても見よ。私たちの成功や富、健康、人間関係の相当の部分が、実は自分では支配できない出来事や環境によつて影響を受けているではないか。アダムは、徹底的に受動的な生を通して、私たちがこの人生の真理を引き受け、強い時には愛を与え、弱い時には愛を受けるようにと呼びかけている。」

私たちの施設で長く暮らしたオレ君は、実は、昨年の秋、肺化膿症で入院し、この一月二日に病院で逝去されました(六十六歳)。あの手記を書いた少年も、今は、三十代か四十代になつてのことでしょう。時々、オレ君たちのことを思い出し、施設を訪ねてくれたらいいなあと願つています。

〈理事長〉長沢道子



集中治療室の一夜、その前後

渡 辺 俊 一

手術直後の一夜は、生涯で最もつらい一夜でした。

二四時間監視の集中治療室で、私の身体は、点滴や心電図など二〇本余の管に縛りつけられています。少しでも動かすと、あちこちで激痛が走ります。意識は朦朧としていて、痛覚だけは敏感に生きています。まさに、十字架の上に縛りつけられた罪人の姿です。

眠れない夜、できることはただ一つ。「主よ、憐れみたまえ。どうか私の痛みを共に担ってください。」これしか祈れません。そのときの出来事です。

私の右隣のベッドで、同じように縛りつけられて、苦しむ主イエスの気配を感じたのです。

「今日なんじは我と共にパラダイスにあるべし」と心に示されます。痛みは変わらなず襲ってきます。が、痛みを耐えて闘う力がしつかりと与えられたのです。

主イエスの苦しみのゆえに、私は救われ、主ご自身は死への途を歩まれた。その死の贖いによって

私には永久の命が約束された。この不可思議な恵みが一瞬のうちに了解できました。

あの一夜は、生涯で最も祝福を受けた一夜でした。

じつは昨年未より嚥下障害に苦しみ、二月、国立がん研究センターで「咽頭ガン。ステージ三」と診断され、即手術となりました。咽頭・声帯を切除し、小腸の一部を消化管とし、ノド前面に穴を開けて気管へ直結する大手術でした。

声帯を取り去りましたから、声は完全に失われました。身障者手帳は三級です。わが家はおかげで言い争いは絶無。軒をかかないので、隣のベッドで軒をかいて安眠の方からは、感謝されております。

筋肉・血管・神経を切ったり貼ったりしたためか、下あごの感覚が超鈍感です。外から触ると何だかフニャフニャしており、じつに気味が悪い。まだ硬直前で、暖かさの残る死体に触っている感じです。え、誰のかつて？ たぶん、渡辺俊一さんのです。

呼吸のほうは、ノド穴から三十分ごとにベツタリとタンが出るので、その度に手当が大変です。要するに、自分の生命を支える作業に巨大なエネルギーを消費し、三十分ごとに「生存税」を払いつけている感じです。

でもこの二月、それは承知で「命をとるか、声をとるか」の決断をしたのです。そして与えられた、もう一つの私の生命は、前にも増して毎日喜びで輝いています。

これを楽しまなくてはいけない、しかし私だけの楽しみにしてもいけない。最後に残された力を振り絞って、家族や教会や学界のため、教え子・友人たちや広く社会のために、研究と人生の楽しみをお返ししなければ……。まだまだ、御国に行くわけにはゆきません。

それにしても、タンには閉口です。ノド呼吸で入ってくる不純物を(何万匹ものコロナ菌も含めて)排除するため、ノド前面の穴から垂れ下がってくるのです。胸をナメクジが這い回る、というよりは、生暖かい悪魔のペロで舐めまわされる感じで、じつに気色が悪い。私の身体が、私の意志に従わず、自分勝手な振る舞いで私を悩ます。

もはやこの身体は、私にとつては他人同様、いわば借り物です。そう、それこそ聖書が教えていることではないか。私の霊はこの朽ちる身体にひととき「宿っているのだ」と示されたのです。

そう考えると、この「身体君」が妙にいとおしくなってくる、いや尊いものに感じるのです。主なる神様が、自らの両手で土の塵からご自分の姿にかたどつてこの身体を造り、この鼻にご自身の命の息を吹き入れて下さったのですから。アダムに示された真理が、いま私に鮮明によみがえってきます。

あらためて、この朽ちる身体を触ってみると、八二才にしては、朽ちるペースもやや鈍いようだし、食べたり考えたり、よく働いてくれる。ガンに侵されながら、よくここまで頑張ってくれた、と感謝の念がわき上がってきます。

いつか、借用期限がきたとき、感謝しつつ創造主へお返しし「主イエスよ、わが霊をお受けください」と安らかな喜びのうちに、しばしの眠りにつく日がくる。その時まで、まだもう少し働いてもらおう、いやうんとコキ使わしてもらおう。主の証しのために。

新転地への不安と、そこで得られた新たな安心

希望寮 菊井 武史

二〇一九年、年が明けて少し日が過ぎた頃、施設長から希望寮への異動について説明がありました。数年前から今年はどうか、いよいよ辞令が出るか?とハラハラしながら年度末を過ごしてきた事もあり、思っていたより素直に受け入れる自分がいきました。そしてあっといいう間に時が過ぎ、「かたくりの花」の勤務最終日、利用者様と職員の方々に送別会を開いて頂き、そこでお別れの挨拶した時「明日からはここに出勤しないのか」とその瞬間が一番現実を感じた事を思い出します。

二〇二〇年四月、十数年前にかけたりの花へ始めて出勤した時以上の不安を抱えながら希望寮の玄関に足を踏み入れた事を鮮明に覚えていきます。早番・遅番など複数ある勤務体制、入浴介助、夜勤など説明を受けるだけで頭が混乱し、体が変則的な生活に慣れるのに半年程かかりました。なかでも特に大変だったのが利用者様、職員を合わせる五十名以上の名前と顔を

覚える事です。同じ名前の利用様を覚えるのも苦労しましたが、今でも間違えるのは申し訳ないです。が女性職員の苗字です。大塚、塚本、太田、大川……。名前を間違える事は大変失礼な行為と充分理解して

いますが、温かい目で見守って下さい。男性職員は全員が年上ですが、どなたもユーモアのある方ばかりで変に気を使わず接することが出来て安心しています。

そして一番大切な利用者様との関係についてですが、少しずつですが距離が縮まっているかなと自分の中では感じています。まだ何を訴え、何に不安を感じていられるか、気持ちを理解する事が出来ない場面に歯



がゆさを感じますが、日々の支援を重ね、行事など楽しい時間を共有しながら焦らずに関係性を深めていきたいと思います。(生活支援員)

成人を迎えて

坂田茜さんのお母様 坂田 美智子



二〇一九年三月高校を卒業してから二年間、毎日のようにかたくりの花へ通所できているのが夢のようです。

寝たきりの茜は幼い頃、学校に行けない日が多くありました。それでも体調のいい時には家族で車中泊をしながら神戸にパンダを見に行ったり、ニュースで富山のホタルイカをやると、光るホタルイカを見に行ったりしました。飛行機で沖縄や北海道もチャレンジしましたが、今となってはいい思い出です。

あちこち旅行に行けなくなった今、かたくりの花で過ごす時間が茜にとって一番楽しい時です。五月に二十歳の誕生日会で撮ってもらった写真を見てびっくりしました。満面の笑み!残念ながら家ではこの笑顔は見られません。コロナ禍で大変な時期のクリスマス会

に参加しご機嫌で帰宅。帰って来てもずっとフンフン独り言(鼻歌)を言っていました。そんな様子を見ると、本当に楽しく嬉しかったんだなと感じ幸せな気持ちになりました。

日頃より娘 茜が大変お世話になり、お陰様で娘も無事成人を迎える事ができました。自分の気持ちを相手に伝える意思表示もしっかりと表現出来るようになり、大人としての成長を感じる今日この頃です。

これからも一日でも長く穏やかに過ごせるよう、家族みんなが祈っています。そして一日でも長くかたくりの花に通うことが出来るように、職員の皆さんも一緒に祈って下さい。これからもお世話になります。

(保護者)



お茶寄贈

常任立議者 赤井 さん

柴田 慎也

毎年、当施設では島田市茶業振興協会島田支部様より、「寿茶(ことぶきちゃ)」を頂いています。寿茶の願いは、長寿を祝うとともに今後の健康を祈念されての寄贈のことです。

静岡に生まれた私は、緑茶を飲む機会が多く、緑茶は健康に良いと言われています。風邪予防に、うがい

にお茶。私の小学校時代は、冬になるとお茶に梅干しを入れて学校に持っていったことを思い出します。でも小学生の時は、お茶よりジュース。お茶を純粋に楽しむではなく、「梅干し」というひと味を加えたものに喜びを感じていたのではないかと思います。また、学校の水道蛇口からジュースが出てくればいいのにと思っていました。

子供の頃は、緑茶をあまり好まなかった私ですが、今の時期温かいお茶で癒されています。

今は、コンビニなどで様々な種類のお茶を、ペットボトルで楽し

める時代。ペットボトルのお茶が普及する前は、急須へ茶葉を入れる。茶葉の入れ具合で、濃さ・風味が変わる。家庭によって、淹れ方が異なる。淹れ方にこだわる家庭もある。お茶には色々な楽しみ方があると思います。

さんもくせいでは、いつでもお茶が飲めるようにティーサーバーも用意しています。入所者がいつでも飲めるようになっていきます。

お茶を飲んで、寿茶の願いでもある「健康で長生き」をして頂きたいと願っています。誰もが願う「長く生きたい」。お茶と共に実現できればと思います。

お茶パワワーだけではなく、日頃の食生活などの改善をしなければと自身の反省です。

今年も長く続くコロナ禍で、お茶寄贈に関しても、玄関先での贈呈式となってしまう残念でした。

さんもくせいでは、感染予防の為、行動制限など入所者に不自由な思いをさせている状態です。コロナの収束を願うばかりです。

(副施設長兼生活相談員)

ご利用者の作品が、カレンダーの絵に

野ばら

大橋 嘉子
小林 睦子

ケアセンター野ばらでは、ご利用者の日課を楽しくて有意義なものにするため、月一回位、外部の専門家を招いて活動しています。

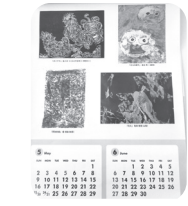
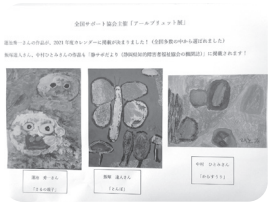
絵画教室、そして、リフレクソロジー(足や背中などを療法士がマッサージ)は、希望する人が、月一回参加するもの。また、身体機能維持のために、特別な助言が必要な人のために、月に一回、理学療法士を招いて助言を頂いています。そして、全員が参加できるレクダンス。これは、専門のレクインストラクターの指導の下、皆が笑って楽しく踊っています。

絵画教室は、住職夫人であり、アーティストでもある桑島よしみ先生を迎えて、もう十二年位続いている活動です。参加者は五名位。熱心に取り組む人もいれば、途中で集中力が切れる人もいますが、紙をビリビリ破いたり、紙片をペタペタ張り付けたりなど、その人らしい方法で参加しています。

利用者にふさわしい作品や教材を考えて下さり、その姿勢には敬服し

ます。二〇一九年度は、県愛護協会から団体部門の銅賞を受賞。それは、ビー玉に絵具をつけ、皆でコロコロ転がし、その痕跡を絵にしたユニークな共同作品です。同年には個人として銀賞や奨励賞を頂いた人もいますが、先生のちょっとしたご指導により、絵の質が格段と上がる感じがします。

主任の杉山さんが、全国サポート協会のほうで「カレンダーの絵を公募」しているのを知って作品を出したところ、蓮池秀一さんの「おさるの親子」が、二〇一一年度の絵に採用され、飯塚達人さんと中村ひとみさんの絵もチラシに掲載され、皆で大喜びしています。(生活支援員)



歩みのあと

(12月1日～12月31日)

●**全体的なこと**()は実施日
▼すみこの石コンサート(11)。
▼主任等研修 第五回目 講師はホツトス・ペース中原代表・佐々木炎氏。Zoomにより、四々五会場、月一回開催。

●**個別のニュース**
《**法人**》長沢理事長が、次の会議等へ出席。①牧之原市障がい者計画等策定委員会。(9日) ②聖隷クリストファー大学で講義。(14日) ③志太榛原地域自立支援推進会議。(書面・16日) ④牧之原市社会福祉協議会評議委員会。(21日)

さざんか・真菜建設に関して地域の代表者に説明(18)／坂部5班の皆様へ説明(19)／第4回理事会。主な議題は、定期監査報告や第2次補正予算案。さざんか真菜建設用地造成工事について等。(26)

《**垂穂寮**》やまばと学園時代からの入居者、森下孝一さんが、入院先の病院で、誤嚥性肺炎によりご逝去。いろいろな思い出、ありがとー！(15)／誕生会、送別会。(30)

《**みぎわ**》コロナでお正月の帰宅が中止。／クリスマス会(26)

《**野ばら**》風を創る人たちが展覧へ4名のアート作品を出展(主催は島田掛川信用金庫)。

《**やまばと希望寮**》夕食の食事介助に、生活支援センターやまばとのスタッフたちが協力。／大型乾燥機、大型洗濯機や給水加圧ポンプ等、修理相

次ぐ。／新型コロナウィルス感染症の影響を受け、冬季ふれあい期間中止。／クリスマス会(19)／忘年会(28)

《**もくれん**》《**わかば**》ご利用者の後見人変更(各1名)／コロナウィルス感染症の影響を受け、年末年始の帰宅対応中止
《**さざんか**》建設に関して地域の方に説明会(19)／建設に関して塚本設計と打合せ。／クリスマス会(19)

《**カサブランカ**》利用者さんが自立支援協議会研修会でパネリストになり、現在の生活を語る。／昼食会(24)

《**希望の家ふれあい**》新型コロナウィルス感染拡大防止のため、クリスマス会は利用者さんと職員のみで行った。／希望の家クリスマス会は(23)／ふれあいクリスマス会は(25)。／保護者会は中止とした。

《**コスモス**》濱口律子さん、三十八年の長年勤続表彰受賞。小規模作業所時代から三十八年間利用されましたが、生活介護事業所へ移ることになりました。ソーシャル・ディスタンスを保つて、本人の大好きな美空ひばりさんの曲や歌謡曲をそれぞれが口ずさみ、思い出を語りながら、新しい門出をお祝いしました。

《**なのほな**》寄せ植えを楽しもう会(25)／H21より利用された女性が契約終了となり送別会(25)／年賀状作り(29)

《**あさがお**》年賀状作りと「新年の決意」発表会&親睦会。個性的な年賀状と新年

のボードが完成。昼食はサンドイツバイキング。班ごとのボードゲームでも親睦を深めました。(26)／島田ライオンズクラブ様より歳末助け合いによる寄付を頂く(五七、五〇〇円)島田市宮美殿にて授与式(22)

《**WOC**やまばと》72歳のご利用者が週1回の利用に(介護保険併用の為)／お歳暮、お年賀に当事業所のお菓子をたくさん注文していただきました。感謝いたします。(42万円)の売り上げ。

《**まがら**》《**マトレット**》《**レタスクラブ**》あつまりリーナ合同クリスマス会(17)

さくららの出し物は全員の合唱「シングルベル」あわてん坊のサンタクロース。マールレットの出し物も合唱、「赤鼻のトナカイ」「アメージン」「グレイス」「ひいらぎ飾ろう」。レタスクラブはオペレッタ「白雪姫」を上演。

合唱中は、前に出て踊り出す人、タンバリンで応援する人など、大変にぎやか。また、歌いながら感極まて涙を流す人もいました。オペレッタは、ご利用者、職員がYontabeの音声に合わせて役になりきって踊り、拍手喝采でした。

《**生活支援センターやまばと**》にこのクリスマス作戦(田村と伊藤が参加。)(3)／れおねの会(榛南榛北相談支援事業所)(3)／自分らしく暮らす研修会(島田)(3) (聖ルカホーム)ご家族の面会を制限しているため対策とし

てWeb面会を整備。／里やまの会様より門松を寄贈していただきました。(餅つき)(28)

《**グレイス**》年末のお楽しみ「楽笑会」(16)／坂部を愛する会・里山の会様よりもち米のご寄付、門松の設置。

《**相寿園**》施設長による聖書のお話(1)／チューリップ球根を皆で植えました。春に綺麗な花が咲くことを楽しみにしています。(3)／クリスマス会皆さん独自の唄を披露。松田施設長による「ついて来るかい」の歌に大盛り上がり。

《**ぎんもくせい**》座談会(1)、静岡給食(小林氏、平賀氏)来訪。次年度契約更新について(9)／クリスマス会(17)。

《**真菜**》建設に関して地域の方に説明会(19)、クリスマス会(23)／25)

《**すずらん**》デイサービスセンター真菜と、感染症に関する会議開催。今後も定期的に行う予定。

寄付金状況報告 (単位：円)

	寄付金	指定寄付金	誌代	合計
4月～11月	5,431,603	0	924,377	6,355,980
12月	5,765,229	0	1,029,873	6,795,102
計	11,196,832	0	1,954,250	13,151,082

美、大塚春美。団体 星いきいき財団、などしこの会、どんぐりボランティア、里山の会。

あとがき
☆表紙の写真は、やまばと希望寮のご利用者。近年見違えるほど明るくなっています。
☆渡辺俊一様は、建築学者で、専門は、比較都市計画研究。今は、NPO法人「日本こどものための委員会」理事でもいらっしやいます。
☆全国的な感染拡大により、当法人でもリモート会合を増やしています。コロナの終息を祈りながら、みんなでがんばっています。(I)